

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	胃排出障害を呈する進行胆膵癌患者に対する十二指腸ステント留置とその後の化学療法の治療成績について
	研究目的	進行胆膵癌の 15-20%の患者が、腫瘍浸潤によって胃や十二指腸が狭くなり、食事内容物が流れていかなくなる（＝胃排出障害）と報告されています。胃排出障害の治療として、内視鏡を用いて狭くなった場所に金属製のステントを留置する、内視鏡的十二指腸ステント留置術がありますが、その問題点として、食残や腫瘍そのものによりステントの内腔が詰まってしまう、再度、食物の流れが悪くなってしまいうまでの期間が短いことが挙げられます。しかしながら近年では、十二指腸にステントを留置した後に抗がん剤治療を行うことで、食物の流れが再度悪くなるまでの期間が長くなってきているようです。そこで本研究は、抗がん剤治療の内容およびそのがんに対する効果と、食事摂取できた期間との関連を解析したいと考えています。
	研究対象者	2010年7月から2019年12月に当センター消化器内科・肝胆膵にて内視鏡的十二指腸ステント留置術を受けた患者さん。
	研究期間	西暦 2020年10月5日～西暦 2021年10月30日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の 管理について の責任者	当センター 研究責任者	上野 誠
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	消化器内科・肝胆膵
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	なし